

# 平成26年度実践力育成事業

事業主体名 鹿児島県立德之島高等学校

## 1 目的

徳之島の農業は、サトウキビ栽培が中心であるが、現金収入が得られやすいバレイショや比較的単価の高い熱帯果樹の栽培も年々増加している現状がある。そこで、これら島内産農産物から発生する規格外品を一次加工及び新商品開発の原料として使用することで、これまでは廃棄されていた規格外農産物を有効活用することを主たる目的としている。

それにより、生徒の農業や食品製造に対する興味関心を高めるとともに、地域農家の生産意欲向上及び地域活性化につなげ、後継者育成の一助としたい。

## 2 実施状況

### (1) 商品開発

本校総合学科情報ビジネス系列及び生活科学系列とも連携し、以下の内容で取り組んだ。

ア 規格外バレイショの一次加工からそれを利用した商品の開発

(ア) バレイショのデンプンから片栗粉を取り出す。

(イ) 片栗粉やバレイショを利用した試作

(片栗粉と黒糖を利用した水まんじゅう、じゃがいももちの製造)

イ 規格外果樹を利用した菓子の製造

マンゴー、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツを利用した菓子試作

(水まんじゅう、クッキー、マフィン、マカロン、パウンドケーキ)

ウ 開発した商品における販売促進活動

(ア) ネーミング・パッケージの検討

(イ) 島内販売所でのアンケート調査



バレイショから片栗粉を取り出す



ドラゴンフルーツを使ったスコーン

### (2) 島内農家・販売所等視察研修の実施

総合学科2年生を対象に、島内の直売所や商品開発や販売等で先進的取り組みをされている農家等を視察し、商品開発のプロセスやノウハウはもとより、それぞれの研修先で担当される方の徳之島の活性化に向けての取組やその思いなどが伝わってきた。



地元スーパーでのアンケート調査

### 3 今後の課題及び取組

商品開発においては、多くの試作やアンケート調査を繰り返す中で、いくつかは今後島内の業者と委託販売の目途がついてきたものも出てきた。今後も、業者と連携しながら改良を図っていき、徳之島の活性化につながるような研究につなげたい。

また、視察研修先の農家においては商品を商標登録までされているものもあり、ネーミング・キャラクター・デザインなど知的財産権を伴う学習においても、今後商品開発を有利に行う上でも必要となってくるのではと考える。



シークニン生産農家視察研修